

年表 これまでの経緯



2007年 iPhone の発売

言うまでもなく、iPhone は市場に革命を起こしました。当初 Apple は第三者のアプリを認めませんでした。しかしすぐに、このやり方では、より多くの端末を販売したり、ユーザーを十分に楽しませたりすることはできないと彼らは気付きました。

2008年

そして App Store の登場

Appleは、外部のアプリ開発者を数多く呼び込むため、App Store を立ち上げる決意をしました。Appleはユーザーにこう聞きました。「ピザを注文したい？ 最寄りの花屋を検索したい？ それとも、ソウルジャ・ボーイの踊り方を調べたい？ それならアプリがありますよ」と。

それならアプリ
がありますよ。



2008年 Hello world! Spotify の登場

2008 年末、デスクトップ版の Spotify がサービスを開始し、多くの人々に音楽ストリーミングを利用できるようになりました。

2009年

Spotify が App Store で利用可能に

iPhone 版アプリの提供開始により、ユーザーは世界中の音楽をいつでもどこでも楽しめるようになりました。



2010年～2011年 Apple が App Store ガイドライン を変更し始める

Apple が最初にガイドラインを導入した時、私たちは、「安全性やプライバシー、そして品質を守るためにルールがあるのは当然だ」と思っていました。しかし、Apple は、何度も一方的に規約自体を変更したばかりでなく、私たちのようなライバルを不利にするような規約の解釈（もしくは再解釈）を頻繁に行っています。

そのため、たった数ヶ月前に、規約を完璧に遵守した上で私たちがしたことが、今では規約に反しているということになってしまっています。

2011年2月以降

Apple は支払システムから選択肢をなくして、Spotifyのようなコンテンツを提供するアプリに対し30%の手数料を課しています。同時にAppleは、私たちが他の方法でユーザーにアップグレードのやり方を伝えることを禁止しています

ユーザーがプレミアムプランにアップグレードするために Apple のアプリ内課金システム(IAP)を利用するためには、Spotify や他のアプリ開発者は、30%の手数料を払わないといけません。Appleは、現在、外部の他の支払方法につながるボタンやリンクも禁じています。これは、私たちのユーザーがプレミアムプランにアップグレードすることをさらに難しくさせる、Apple の数多くの施策のひとつです。





2011年

30%の手数料は私たちのユーザーにとっても、私たちのビジネスにとっても、高すぎる

私たちはアプリ内課金を利用しないことを選びました。理由はたくさんありますが、そのうちのひとつは、30%も徴収されてしまうと高すぎて、ユーザーに低価格でサービスを提供し続けることができなくなるからです。残念ながら、結果として、アプリからプレミアムプランにアップグレードすることはできなくなりました。

2011年（10月）

iPhoneにSiriが登場するも、Spotifyは再生できず

「Siri、Spotifyのプレイリストをかけて」。Siriは応答してくれません。

**Siriは答える。
「いいえ！」**



2011年～2014年

その後3年間、私たちは、Appleから、彼らの支払システムを採用するよう苛烈な圧力を受け続けました

2011年から2014年まで、Appleはアプリ内課金を採用するように常に私たちに圧力をかけ続けました。

2014年（6月）

ついに、私たちはアプリ内課金をやってみました。それにより、私たちはAppleの30%の税を課されたので、悲しいことに、私たちのユーザーに対して価格を上げざるを得ませんでした

私たちのユーザーは、ついに、プレミアムプランを私たちのiOSアプリから直接購入できるようになりました。でも、それは同時に、私たちのプレミアムプランの月額を12.99ユーロ（約1,642円）に引き上げなければならないことを意味しており、もちろん、ユーザーは誰一人ハッピーになりませんでした。



2015年（4月）

私たち：「Appleさん、Apple Watchとても素敵ですね。そのためのアプリを作ってもいいですか？」

Apple：「嫌だね」

Appleが新たにApple Watchを発売した時、彼らは私たちの提案を却下し、Apple Watch用のアプリ開発のために私たちと協力しようとはしてくれませんでした。それなのに、Appleは他のアプリをApple Watchに入れるのは許可しました。

2015年（6月）

Apple Musicのサービス開始。Spotifyにとってあまりにも馴染みのある価格で

ストリーミングの分野で遅れをとっていたAppleはBeatsを買収し、そのブランドを立て直して、Apple Musicとしてサービスを開始しました。Apple Musicは、30%のアプリ内課金の手数料を払う必要がないので、私たちより大幅に値下げすることができました。その結果が9.99ユーロ（約1,262円）。私たちのユーザーからすれば、この価格差は、Spotifyに裏切られたかのようにみえたでしょう。



2016年（5月）

私たちはAppleの支払システムにも、そのシステムを利用するために人為的に変更を余儀なくされた競争力の劣る価格にも見切りをつけました

私たちがアプリ内課金に見切りをつけたということは、つまりApp Storeからプレミアムプランにアップグレードできなくなることを意味します。あ～あ（溜息）。



2016年 (5月)

Apple は、以前より一層頻繁に Spotify iOSアプリの申請を拒否し始めました。それだけでなく、App Store から私たちを追い出そうと脅しをかけてきました

Apple Music がある現在、Apple は、いっそう頻繁に Spotify アプリを拒否するようになってきました。そればかりか、私たちを App Store から排除すると脅しをかけてきました。しかも、こうした排除の動きは、私たちの販売促進キャンペーンの時期と重なっていました。

2016年 (6月)

Apple が App Store ガイドラインを厳しくしました。そう、またです

2011年2月以降、私たちは、商品情報や割引、キャンペーン等のページにつながるボタンや外部リンクをアプリ内に一切表示できなかったのに（支払システムへ直接リンクしていない場合でさえ！）、今回は「行動を促す行為」に対する規制が追加されました。

2016年 (9月)

Apple は再び、Apple Watch アプリに関する Spotify の提案を却下しました

私たちは、Apple Watch 上で直接利用できるストリーミングアプリに関する新たな提案を提出しましたが、Apple は却下しました。



2016年 (11月) ~ 2017年 (6月)

Apple は、より頻繁に、より唐突に、より不公平に、私たちのアプリのアップデートを拒否し続けました

ついに、「詳細はこちら」ボタンを作るだけでも Apple は怒り出しました。私たちがそんなルールを聞いたのは、この時が初めてでしたけれど。もう私たちにできるのは、規約に違反しないように注意することだけでした。しかし、私たちに許可されること、許可されないことの定義自体が日々変更されてしまう中では、それすら簡単なことではありませんでした。

2017年 (6月)

App Store ガイドラインがまたしても厳しくなりました

アップデートされたガイドラインでは、競合するアプリは「直接、間接を問わず、iOSユーザーに対してアプリ内課金以外の購入方法の利用を勧めることや、アプリ内課金の利用を躊躇させるような行為」をしないと同意しなければなりませんでした。

2017年 (9月)

Apple は Apple Watch に関して妨害を続けました

Watch OS 4 では、Apple は、Apple Watch のための機能的なストリーミングソリューションを提供しようとする私たちを妨害し続けました。

2017年 (11月)

Apple が Spotify のアプリを再び拒否しました

今回は、Spotify のプレミアムプランのプロモーション（「今なら3か月分が 0.99 ユーロ（125 円）」）をしたことが理由で拒否されました。このプロモーションは、どこで、どうやってプレミアムサービスを購入できるかの情報さえ載っていないランディングページにユーザーを導くだけのものでした（しかも、それは Apple がたった数カ月前には許可していたことでした）。実際に、Apple の主任弁護士は、その一年前に、私たちに対して、「この手のランディングページならオーケーです」と言ったにもかかわらず、です。そのような経緯があったにもかかわらず、App Store から私たちのアプリは拒否されてしまいました。



2018年(2月)

Spotifyが使用できない Apple HomePodの発売

AppleはHomePodを発売しました。この製品はSiriと同じように音声による指示に従って色々なすごいことをしてくれるスマートスピーカーです。正確には、Spotifyで音楽を再生する以外のすごいことをです。Appleは、他のアプリを利用することは歓迎するものの、Spotifyのように競合する音楽ストリーミングアプリには扉を閉ざしているのです。



2018年(5月)

AppleがSpotify のアプリを再び拒否しました

今回の拒否の理由は、App Store上のSpotifyアプリの説明に「無料」という言葉が記載されているからでした。これが、明

2018年(7月)

拒否は続くよ 、どこまでも!

ここまで来ると、私たちの行動について、Appleが何をどう解釈するつもりなのか、もう予測不可能でした。今回は「入会して、プレミアムになろう」というフレーズが禁止されました。



2018年(9月)

Appleがついに、Apple WatchでSpotifyアプリ を使うための機能強化 を認めました

Watch OS 5で、AppleはSpotifyチームがオフライン機能の開発を進めることを認めました。

2019年(2月)

Appleの規制リストで次に 目をつけられたのは、ポ ッドキャストのレコメン ドーション

私たちは、最高にワクワクする2つのポッドキャスト関連企業の買収を発表しました。すると突然、Appleが独断で、ポッドキャストをユーザーに推奨する目的でのアプリ内課金の使用禁止を決定しました。



2019年(2月)

Appleの規制リストで次に 目をつけられたのは、 ポッドキャストのレコメ ンドーション

私たちは、最高にワクワクする2つのポッドキャスト関連企業の買収を発表しました。すると突然、Appleが独断で、ポッドキャストをユーザーに推奨する目的でのアプリ内課金の使用禁止を決定しました。

2019年(3月)

Spotifyは欧州委員会に公正な競争の場 を確保するよう求める

フェアな競争があれば、消費者にも企業にもメリットがあります。

ねえApple、
フェアに競争しようよ。

2019年(10月) ~ 2020年(4月)

Appleはついに特定のデバイスでSiriによる操作ができるようになったと発表

Appleは数年間の利用制限を経て、Siriを通じ初めてSpotifyを利用できるようにし、iOS 13を搭載した特定デバイスであれば、ユーザーが音声によってSpotifyを再生できるようになりました。ただし、Spotifyをデフォルトの音楽プレーヤーとして選択することはできません。また、音楽を再生を指示する度にSpotifyという名前を言わなければ（「Spotifyで『X』をかけて」）、SiriとAppleデバイスはデフォルトとしてApple Musicを起動します。



2020年(6月)

欧州委員会が遂にAppleに対するEU内での調査を開始

Spotifyのみならず、Appleの反競争的行為により不利益を被っていた消費者や世界中の多くの企業にとっても重要な進展です。

